島根県邑智郡桜江町
小田方言における比喩語

岩城裕之

はじめに

1　調査対象地：島根県邑智（おち）郡桜江町は、島根県のほぼ中央部に位置し、日本海岸の江津市に約14キロ、浜田市へ約40キロの地点にある。東は川本町、西は金城町、旭町に接し、南は石見町、北は温泉津町、江津市に接している。交通は、町内を江川に沿って国道261号線、広島県三次と島根県江津を結ぶＪＲ三江線が横断している。高速バス便もあり江津、広島までそれぞれ４本ある。
調査地となった小田は、役場や駅のある川戸集落から八戸（やと）川に沿って奥に入った最初の集落である。戸数は約１２０戸ほどの農業集落である。

2　調査年月日：
１９９３年３月２２日　午前１１時から約４時間

3　方言話者：
元山ミサオ（モトヤマ　ミサオ）　明治４１年１０月生まれ　調査時　８４歳
大上重義（オーウエ　シゲヨシ）　大正１５年８月生まれ　調査時　６６歳

4　調査者・調査場所：岩城裕之
元山氏は自宅玄関先で、大上氏は自宅応接間で行った。

5　調査方法・調査時の様子：配布された調査票に基づく面接調査。
雑談をまじえつつ、和やかな雰囲気で調査できた。なお、以下の★印で掲げた語形は、調査票以外の項目で得られたものである。

I　《自然現象》

1　日照り雨　キツネノ　ヨメイリ（狐の嫁入り）古　稀
2　入道雲　ニュードーグモ＜名詞＞
3　旋風　タツマキ（竜巻）＜名詞＞
4　霜柱　シモバシラ＜名詞＞
5　つらら　ナンジョー（南じょう）＜名詞＞古　稀
ナンリョー（南鐐）の音訛か。「南鐐」は精錬された銀の意。
また、江戸時代、南鐐二朱銀という貨幣があった。
一面の雪景色のことを銀世界というが、その類の比喩か。つららを銀に例えたものか。
6　北斗七星　ヒシャクボシ（柄杓星）＜名詞＞
七つの星を結んだ形が柄杓に似ていることから。
7　昴　特に名称はない。
8　流れ星　ナガレボシ＜名詞＞

II　《動物》

9　かわはぎ　カワハギ＜名詞＞

10　ひらめ　　ヒラメ＜名詞＞
11　ひきがえる　ヒーキ（ひいき）＜名詞＞
　　ビキガエル（びき蛙）＜名詞＞
★　殿様がえる　　サバガエル（鯖蛙）＜名詞＞古　稀
　　体に魚の鯖のような斑点があることから。
12　青大将　　アオダイショー＜名詞＞　大きい蛇はすべて青大将と言う。
　　○アオダイショー、オーキナヤツー　ミナ　アガーニ　イーヨリマス。
　　（青大将、大きなやつを全部青大将と言っています。）
★　カラスベビ（烏蛇）＜名詞＞
　　体が黒くて小さい蛇。烏と同じく、黒いことによる命名。
13　とかげ　　トカゲ＜名詞＞
14　かまきり　　カマキリ＜名詞＞
15　みずすまし　ミズスマシ＜名詞＞
16　きつつき　　キツツキ＜名詞＞
17　せきれい　　セキレイ＜名詞＞
18　ふくろう　　ヨズク（よずく）＜名詞＞

III　《植物》
19　馬鈴薯　　キンカイモ（きんか芋）＜名詞＞
　　土地の人は、金貨芋であろうと説明する。
　　○コーカノ　コ下デショー。（〔キンカは〕硬貨のことでしょう。）
20　とうもろこし　　マンマンコー（まんまんこう）＜名詞＞古　稀　　由来は不明。
21　いんげん豆　　インゲンマメ＜名詞＞　豆は種類が多い。名称も混同気味。
　　○マメワ　シュルイガ　ダーブンアル。（豆は種類がかなりある。）
22　そら豆　　ソラマメ＜名詞＞
★　ナタマメというのもある。大きく、幅の広い豆。にしめにして食べる。
23　木くらげ　　キクラゲ＜名詞＞
24　げんのしょうこ　ゲンノショーコ＜名詞＞
25　どくだみ　　ジューヤク（じゅう薬）＜名詞＞
　　重薬か、十薬か。ここでは特に由来についての教示はなかった。
　　○コノヘンニャー　フジンカイノ　ヒ下ガ　下ッテ　オチャニシテ　ダシンサル。（このへんでは婦人会の人が取って、お茶にして出していらっしゃる。）
26　いたどり　　イタ下リ＜名詞＞
　　○コ下モガ　ナー　アレオ　スイテ　タベマス。
　　（子供がねえ、あれを好んで食べます。）
27　からすうり　　カラスウリ＜名詞＞　このあたりにはない。
28　すみれ　　スモートリバナ（相撲取り花）＜名詞＞
　　この花で相撲を取って遊んだ。
　　○スモートリバナ　下ッテキテ　スモートローヤ　ユーテ　イーヨリマシタ。（相撲取り花を取ってきて相撲を取ろう、と言っていました。）
29　春蘭　　シュンラン＜名詞＞　お茶にする。
30　母子草　　ホーコーグサ（ほうこう草）＜名詞＞　由来は不明。

31　ねむの木　　ネム＜名詞＞

Ⅳ　《性向》

32　熱しやすく冷めやすい人　　ミッカボーズ（三日坊主）＜名詞＞
33　あわてん坊　　アワテンボー（あわてん坊）＜名詞＞
　　ケソケソスルヒト（けそけそする人）
　　「ケソケソ」は象徴詞。
34　動作の鈍い人　　トロイ（とろい）＜形容詞＞
35　嘘つき　　センミツ（千三つ）＜名詞＞
　　千に三つしか本当のことがない。
36　ほらふき　　オーブロシキ（大風呂敷）＜名詞＞
37　おしゃべり　　ベンシ（弁士）＜名詞＞
38　冗談言い　　コセオ　ユー（こせを言う）
　　「コセ」は、突拍子のないこと。由来は不明。
39　口先だけの人　　センミツ（千三つ）＜名詞＞
　　千に三つしか本当の事がない。
40　とんちんかんなことを言う人　　トンチンカン（とんちんかん）＜名詞＞
　　チョーシッパズレ（調子外れ）＜名詞＞
41　のらりくらり煮えきらない人　　ノラリクラリ（のらりくらり）
　　ニエキラン（煮えきらん）
42　怒りっぽい人　　タンキ（短気）＜名詞＞
　★　腹をたてる　　ハラオ　コク　　「こく」という動詞を使うところが面白い。
43　気むらな人　　テンキモノ（天気者）＜名詞＞
　　晴れたり曇ったり、雨が降ったりと、ころころかわる天気にたとえた。
44　泣き虫　　ナキベソ（泣きべそ）＜名詞＞
　　ナキジョーゴ（泣き上戸）＜名詞＞
45　おてんば娘　　オテンバ（おてんば）＜名詞＞
　　オトコマサリ（男勝り）＜名詞＞
46　腕白坊主　　ゴンゾー＜名詞＞
　　人名であろうと土地の人は説明する。
　　そういう名前の腕白坊主がいたか。
47　出しゃばり　　デベソ（出臍）＜名詞＞
　　外に出たままで内に入ることのない人を、出たまま引っ込むことのない出臍に例えた。
48　どこへでも顔を出す人　　デベソ（出臍）＜名詞＞　上の48「デベソ」と同じ。
49　家にこもって外出しない人　　インジューモノ＜名詞＞　陰住者か。
　　ミソオケ（味噌桶）＜名詞＞
　　味噌桶は、外に出すことがないことによる比喩。
50　小心者　　ショートキモ（しょうと肝）＜名詞＞　由来は不明。
51　内弁慶　　ウチベンケー（内弁慶）＜名詞＞
52　人づきあいをしない人　　ヒトズキアイガ　ヨーナイ（人づきあいが良くない）

53　妻に対して頭の上がらない男　シリシカレ（尻敷かれ）<名詞>
54　けち　ケチ（けち）<名詞>
　　ケチンボー（けちん坊）<名詞>
55　欲張り　ニギリ（握り）<名詞>

V　《食生活》
56　大食漢　オーメシクライ（大飯食らい）<名詞>
　　ダオケ（だおけ）<名詞>古　稀
　　「ダオケ」の本義は、牛の餌をいれる桶のこと。
57　ぼたもち　トナリシラズ（隣知らず）<名詞>
　　臼と杵を使ってつく餅と違い、作るとき音がしないことから。
58　砂糖味が薄い　サトーヤノ　マエオ　ハシッタヨーナ
　　（砂糖屋の前を走ったような）<慣用句>
　　サトーウリトーッタ（砂糖売り通った）<慣用句>
59　塩味が薄い　ミズクサイ（水くさい）<形容詞>
　　砂糖が足りない場合も言うことがある。
60　大酒飲み　イッショーダル（一升樽）<名詞>
　　ウバハミミタイニ　ヨーノム（うばはみみたいによく飲む）
　　「ウバハミ」は大蛇のこと。大蛇のようによく飲む。
61　酒に酔ってくだをまく　グダマク<動詞>
　　○グダマクケー　ウルサイケー　ユーテ　ヒトガ　イーンサルガ　チー。
　　（ぐだをまくから、うるさいからと言って人が言われるけれどなあ。）
62　酒に酔って顔が赤くなるさま　カジミマイ　イッタヨーナ
　　（火事見舞いに行ったような）<慣用句>

VI　《動作・様態》
63　恥ずかしくて顔が赤くなるさま　ツラビカ　モエル（面火が燃える）<慣用句>
64　土砂降りの雨　オードシャブリ<名詞>
　　ホソビキノヨーナ　アメ（細びきのような雨）
　　ホソビキは繊維でできた縄のこと。雨を縄に例えた。
65　ずぶ濡れになるさま　ビショヌレ<名詞>　ずぶ濡れになった様子をいう。
　　ヌレネズミ（濡れ鼠）<名詞>　ずぶ濡れになった様子をいう。
66　服装がだらしない様　ダラシガナイ<形容詞>
　　ビッタレ（びったれ）<名詞>　由来は不明。
67　髭が伸び放題な様　特に名称はない。
　　あえて言えば、伸び放題の髭をブショーヒゲ（不精髭）<名詞>という。
　　このへんにはそういう人がいない。
68　厚化粧をしている人　シラカベオ　ヌットル（白壁を塗っている）<慣用句>
69　背丈の高い人　ノッポ（のっぽ）<名詞>
　　クモノスハライ（蜘蛛の巣払い）<名詞>　稀

聞いたことがある程度。

70　出びたい　　デブチン（出ぶちん）<名詞>

★　髪の薄い頭　　キンカ（きんか）<名詞>

金貨であろうと土地の人は説明する。光ることによる連想か。

71　汗が額から流れ落ちる　タキノヨーニ　アセガ　デル（滝のように汗が出る）

72　目を丸くする　　バカガ　テッポーハナータヨーナ（馬鹿が鉄砲放ったような）

73　口をとがらす　　ツノグチ（角口）<名詞>

口をとがらせた形が角に似ているからか。

74　焦げ臭いにおい　　コゲクサイ<形容詞>

ソコエツイタヨーナ　ニオイ（底へついたような臭い）　稀言えないこともない程度。

75　遠回りをする　　トーマワリスル<名詞>

76　末っ子　　バッシ（末子）<名詞>　末子の字音の音訛か。

スエッコ<名詞>

77　一生懸命頑張る　　ガンバル<動詞>

まとめ

●調査票に掲げられた自然現象についての名称に、比喩表現はほとんど見当たらなかった。しかし、これにより、当地での自然現象の名称に比喩表現が少ないとは言いきれない。もっと調査を行えば出てきたと思われるが、調査票での項目によれば、あまり比喩は見当たらなかった。

●自然現象に比べると、動植物は比喩表現が多く出現する。子供の頃から慣れ親しんだことによるのであろうか。動植物との接触に比べると、特に天体現象などと接することは少なかったであろう。

●動作や様態に関する比喩表現は、「ような」を伴った直喩的なものが多い。動作や様態の微妙な表現は、語の形よりも、句の形で直喩的に用いられる事が多いのであろう。

●動植物などは、モノ自体が存在していない場合もある。また、性向などに関しても、例えば「酒を飲んでぐだをまく」言い方を尋ねた場合、具体的に集落内の人物を頭に浮かべて、「そこの○○さんのようなことだが」という感じで反応があった。このことは、裏を返せば集落に該当するような人物がいない場合、それを表す語は特には存在しないということである。例えば「伸び放題の髭」がそうであった。

○ナニイーマスカ　ナ。コノヘンニャー　アガーナ　ナニ　オリマセンケー　ナ。イーテガ　アリマセン　ヨー。

（なんと言いますかなこの辺にはあんな人いませんからねえ。言う相手がいませんよ。）

追記

桜江町での調査にあたって、桜江町役場の山崎禅雄氏にお世話になった。

なお、氏によれば、桜江町内につららをシンザイという地方があるとのことである。

（いわきひろゆき　広島大学教育学部４年在学）